

## 第五回シンポジウムの開催にあたって

中国第一歴史档案館副館長 楊 繼波

御出席のみなさま

春たけなわの中、この美しい沖縄の地で、私たち档案関係者は「第五回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム」に参加できましたことを非常にうれしく思っております。まず、この第五回シンポジウムの開催にあたり、中国第一歴史档案館邢永福館長に代わって、また今回の代表团一行および中国第一歴史档案館の全職員を代表しましてご挨拶申し上げます。

一九九一年三月十八日、中国第一歴史档案館と沖縄県教育委員会がはじめて「清代の档案マイクロフィルムの相互交換に関する覚書」を調印して以来、私たち双方は力をあわせて努力し、清代档案史料の出版・刊行、学術シンポジウムの開催、研究者の交流等の形式で中琉史の研究を促進するとともに、相互の友好を深め、満足する成果を得てきました。現在までに、中国第一歴史档案館は清代中琉関係档案史料一八一七件を整理刊行しました。これらの档案は清代の中央国家机关である内閣、軍機処、内務府、礼部、国子監および宮中の各所のもので、その主な内容は、清朝政府が使者を琉球に派遣して琉球国王を冊封することに関するもの、琉球国が清朝に進貢使・接貢使・請封・接封・謝恩使を派遣することに関するもの、琉球国が官生を清の国子監に派遣、学問をさせることに関

するもの、官生が生活用品を受け取ったり琉球に帰国することに関するもの、中国の地方役人が琉球の使者を送迎することに關するもの、中琉貿易・文化交流に關するもの、中琉の海上における遭難民の相互救助ならびに護送、帰国に關するもの、清朝政府が琉球国の船隻を強奪した海賊を逮捕することに關するもの、清朝の皇帝から琉球国王・王妃・使者への賞賜品に關するもの等であります。これらの貴重な檔案は中琉關係の眞実の歴史記録であり、その整理刊行は、中琉關係史、アジア史にとって、ひいては世界史の研究にとって非常に意義あることだと思います。

私たちはすでに五回の琉球・中国交渉史シンポジウムを開催してきました。この中で、各研究者が政治、經濟、文化のそれぞれの角度から中琉の歴史に対して、広範で深く掘り下げた検討を行ってきました。新史料の発見と整理刊行、檔案史料の考訂と研究、歴史問題に対する解釈と見解は、中琉の歴史關係の研究の内容を豊富にし、研究領域を拡大し、中琉の歴史關係上の幾つかの問題を明確にし、深く追求していることは明らかです。

今回のシンポジウムには中国第一歴史檔案館から方裕謹先生・呉元豊先生・李国荣先生・朱淑媛女史の四人が論文を提出しています。これらの論文発表も、新しい檔案史料の発見やそれらを利用した研究であることを理解していただけるかと思えます。

長期にわたって協力關係を築いていくことは中国第一歴史檔案館と沖縄県教育委員会の共通の願いです。このシンポジウムは双方で開催する本世紀最後のシンポジウムであり、二つの世紀をつなぐ学術会議でもあります。昨年十二月那永福館長と安室教育長が北京で「中国第一歴史檔案館と日本国沖縄県教育委員会との中琉歴史關係学術交流に關する協議書」を調印したことで、世紀を跨いだ中琉歴史学術交流の展開が保証されました。私はこの協議の

内容を実施していく中で、更に多くの成果が世の人々の前にあきらかにされるだろうと確信しております。

御出席の皆様、中国第一歴史檔案館と沖縄県教育委員会との協力、交流の範囲もまさに広がりとつありつあります。このたび沖縄を訪問し、この第五回シンポジウムに参加した私たち代表団の一行には、中国国家檔案局および地方檔案局、檔案館の関係者が加わっています。彼らは沖縄県公文書館の仕事の内容を理解したいと切望しております。これもまた協力関係の領域が広がりとつある一つの証ではないでしょうか。

過去、現在とこれまで私たちが築きあげてきた協力関係は、今後の関係にしっかりとした基礎を築き、さらに充実した関係展開への願望と確信をもたらせてきてくれています。私たちのこの関係は明日もまた素晴らしいものでありましようし、次の二一世紀もまたさらにすばらしいものであろうことを私は信じてやみません。

最後に、今回の中国・琉球交渉史に関するシンポジウムの成功を祈念してご挨拶いたします。

一九九九年三月六日